

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 藤田 素子	提出日：平成 23 年 11 月 24 日
東南アジア研究所における職名： * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手 <input checked="" type="radio"/> ポスドク 博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： インドネシア・リアウ大学・Ahmad Muhammad氏 / マレーシア・サラワク博物館・Charles Leh氏 * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。(大学 <input checked="" type="radio"/> 研究機関 ・企業・その他)	
派遣先の研究機関等での職名：なし	
派遣期間： インドネシア：平成 23年 9月22日～29日，10月4日～25日 (派遣日数：30日) マレーシア：平成 23年 10月 26日～平成 23年 11月 2日 (派遣日数：8日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) <input type="radio"/> ①研究・実験 <input checked="" type="radio"/> ②フィールドワーク <input type="radio"/> ③セミナー <input type="radio"/> ④インターンシップ <input type="radio"/> ⑤サマースクール等の講習 <input type="radio"/> ⑥学会出席 <input type="radio"/> ⑦単位取得等 <input type="radio"/> ⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) <input type="radio"/> ①人文学 <input type="radio"/> ②社会科学 <input type="radio"/> ③数物系科学 <input type="radio"/> ④化学 <input type="radio"/> ⑤工学 <input checked="" type="radio"/> ⑥生物学 <input type="radio"/> ⑦農学 <input type="radio"/> ⑧医歯薬学 <input type="radio"/> ⑨総合領域 <input type="radio"/> ⑩複合新領域	
派遣の概要(500～700字程度) 9月・10月のインドネシア・リアウ州における調査では、リアウ大学のAhmad Muhammad氏の協力のもと、これまで続けてきたICレコーダーを用いた鳥類録音システムの一部データ回収と、モニタリングシステムの不具合に関するチェックを行った。また、目視観察データが欠損していた天然泥炭林において、ポイントカウント法による目視観察および音声録音、そして鳥類調査の専門家に手伝ってもらいカスミ網を使った捕獲調査を同時に行い、集中的な調査を行った。ポイントカウント法では川沿いから内部にかけて3つのトランセクトを設定し、250mおきに4つのポイントをつくり、朝は6:00-9:00、夕は14:00-17:00の間で20分間のポイント観察を行った。捕獲調査ではこのうち1つのトランセクトで主に行い、4つのポイントにそれぞれ5枚ずつのカスミ網を設置し、6:30-16:30の間、1～2時間に1度見回りを行って鳥類を捕獲し、同定・計測・足輪をつけた後、放鳥した。これにより、これまでにポイントカウント・カスミ網の両方のデータ得られていたアカシア林、ゴム林、村落エリア(ポイントカウントのみ)との鳥類相の比較が可能となった。 10月のマレーシア・サラワク州における調査では、新たに設営されるアナツバメ実験設備の設計等について、サラワク博物館のCharles Leh氏やその他の専門家との打ち合わせを行った。	
事業に係る研究成果(500～700字程度) インドネシアにおける成果としては、天然泥炭林およびアカシア林・ゴム林・村落エリアの全てを含めて166種の鳥類が観察された。アカシア林やゴム林・村落エリアでは比較的オープンな環境(草原や林縁など)が好きな普通種がおおくみられたのに比べて、天然泥炭林では森林性の鳥類が多かった。特にTrogon(キヌバネドリ科)やHornbill(サイチョウ科)など、絶滅が心配されている鳥類種が多くみられ、伐採は入っているものの比較的良い状態の森林であることが推測された。また、天然林の外ではほとんど見られなくなってしまったBabbler(チメドリ科)の種類も多く、地域のレフュージアとして機能していることが示唆された。また、逆にオリジナルである天然林と比較するとアカシア林やゴム林は種組成が全く異なり、アカシア林などは元来生息していた鳥類の生息地としてはほとんど機能しないことも明らかになった。 マレーシアにおける成果としては、アナツバメ実験設備の設計等について有益な議論ができた。	